

第13章 石碑・石塔の集計一覧と刻字解読

それぞれの諸元データを集計したものであります。

銘文の刻字解読に当って、こちらで読めなかった字については、こちらから写真データを提供し、村山民俗学会元事務局長の市村幸夫さんから絶大なるご協力を賜って、初めて活字化を図り公開したものであります。

しかし、石碑・石塔の現物の中には経年劣化に伴う摩滅が著しく、写真撮影の不備や判読不能のものと相俟って、何とか読めたものの正確さを欠くままにこちらの責任で記述したものもあります。より正確さを求めて今後とも追求・調査を重ねて行くこととし、訂正などが生ずればフォローしていくこととします。

掲 載 項 目

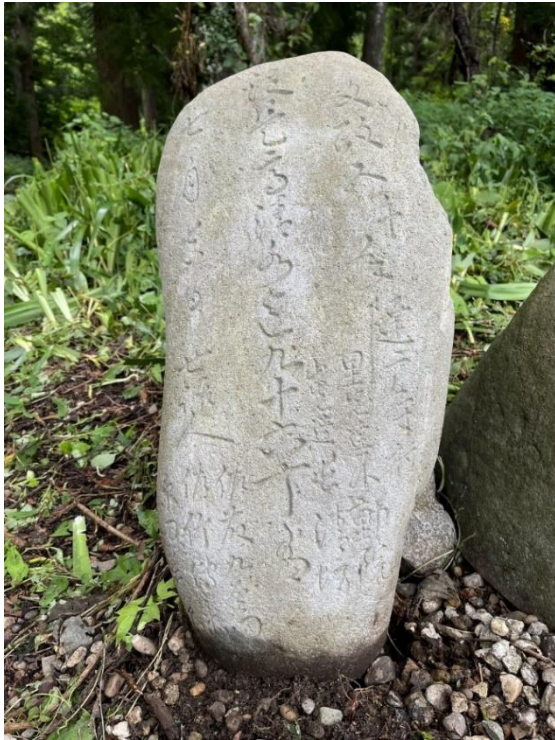
項 目	頁 数
I 各丁石	2
II 姥像等石碑群	30
III 水受け「石船」	38
IV 古来の『高清水』（現元高清水）墓石2体	40
V （半体）地藏菩薩像	43
VI 「胎内岩」の供養碑と墓石 （一部）	47
VII 修行僧「禪定尼」の墓石	48
VIII 本通り沿いにあるその他石碑	49
IX 本通りの道標	50
X 石碑・石塔の大きさと重量の一覧（註）	52

（注記）正確な材質の特定や重量について第三者機関に分析依頼したものではなく、次の指標を以って試算したものである。

- ・河原にあるような自然石については、比重（密度）を2.5程度とした。
- ・墓石については、相応の硬さであろうから、比重（密度）は3.0程度とした。
- ・大きさはそれぞれの最大値を取っているので、重量試算においては75～85%に圧縮した。あくまでも目安にする試算であり、「 $\odot\odot\pm\alpha$ 」の感覚で捉えてください。

I 各丁石 ～ 2025(R7)年6月末現在

1. 起点記念碑（再掲）



高・66cm、幅・30cm、奥行・20cm

自然石

推定重量 84kg

文政五年 達磨寺村
 里先達 不動院
 山先達 長清坊
 従是高清水迄九十六丁處
 佐藤九右衛門
 世話人 佐竹傳兵衛
 七月吉日 原田善兵衛

・文政五年＝西暦 1822 年

・左右両側面、背面には何も刻されていない。

(以下の2体は再掲)

現存する最初の丁(石)



九丁 同村
 多右衛門

不明(刻字なし)
 九十六丁
 不明(刻字なし)



現存する最後の丁(石)

2. 一覧表

多右衛門(9)



善十郎(13)



十兵衛(14)〇



四郎兵衛(15)



忠兵衛(16)〇



曾兵衛(22)〇



茂吉(23)



茂左衛門(24)



喜内(25)



太郎兵衛(27)



□郎兵衛(28)



盛之斎(29)



茂八(33)



武八(34)○



不明(48)



不明(52)



不明(56)



長二郎(59)



不明(69)



新太郎(71)



新太郎(72)○



傳七(75)



九左エ門(80)○



四郎兵衛(84)



久二郎(85)○



□七(86)



市郎兵衛(87)○



弥五兵衛(94)〇



不明(95)



不明(96)〇



1		□ □ □ □ 丁 □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
2		□ □ □ □ 丁 □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
3		□ □ □ □ 丁 □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
4		□ □ □ □ 丁 □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量

5		□ □ □ □ 丁 □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量量
6		□ □ □ 丁 □ □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
7		□ □ □ 丁 □ □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
8		□ □ □ 丁 □ □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
9 (1)		九 同村 丁 多右衛門(✓)	高さ 42cm 幅 38cm 厚さ 10cm 自然石 推定重量 34kg

10		□ □ □ 丁 □ □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
----	--	---	---

11		□ □ □ 丁 □ □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
12		□ □ □ 丁 □ □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
13 (2)		十三丁 同村 善十郎(✓)	高さ 47cm 幅 27cm 厚さ 15cm 自然石 推定重量 40kg
14 (3)		十四丁 同村 十兵衛	高さ 45cm 幅 26cm 厚さ 8cm 自然石 推定重量 20kg

15 (4)		十五丁 同村 四郎兵衛	高さ 47cm 幅 30cm 厚さ 10cm 自然石 推定重量 30kg
-----------	---	-------------------	--

16 (5)		十六丁 同村 忠兵衛	高さ 53cm 幅 31cm 厚さ 10cm 自然石 推定重量 35kg
17		□ □ □ 丁 □ □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
18		□ □ □ 丁 □ □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
19		□ □ □ 丁 □ □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量

20		□ □ □ 丁 □ □ □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量量
----	--	--	--

21		□ □ □ 丁 □ □ □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
22 (6)		二十 丁 曾兵衛 同村	高さ 53cm 幅 36cm 厚さ 10cm 自然石 推定重量 41kg
23 (7)		二十 丁 茂吉 同村	高さ 50cm 幅 30cm 厚さ 12cm 自然石 推定重量 38kg
24 (8)		二十 丁 茂左衛門 同村	高さ 56cm 幅 26cm 厚さ 10cm 自然石 推定重量 31kg

25 (9)		二十五丁 喜内(✓) 同村	高さ 56cm 幅 30cm 厚さ 10cm 自然石 推定重量 36kg
-----------	---	---------------------	--

26		□□□丁 □□□ 同村	自然石 推定重量
27 (10)		二十七丁 太郎兵衛(✓) 同村	高さ 52cm 幅 32cm 厚さ 11cm 自然石 推定重量 39kg
28 (11)		二十八丁 □郎兵衛 同村	高さ 53cm 幅 24cm 厚さ 11cm 自然石 推定重量 30kg
29 (12)		二十九丁 盛之斎 同村	高さ 49cm 幅 31cm 厚さ 14cm 自然石 推定重量 45kg

30		□ □ □ 丁 □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
----	--	---	---

31		□ □ □ 丁 □ □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
32		□ □ □ 丁 □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
33 (13)		三十三丁 茂八 同村	高さ 53cm 幅 34cm 厚さ 11cm 自然石 推定重量 42kg
34 (14)		三十四丁 武八 同村	高さ 46cm 幅 31cm 厚さ 10cm 自然石 推定重量 30kg

35		□ □ □ □ □ □ □ 丁 □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
----	--	--	---

36		□ □ □ □ □ □ □ 丁 □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
37		□ □ □ □ □ □ □ 丁 □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
38		□ □ □ □ □ □ □ 丁 □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
39		□ □ □ □ □ □ □ 丁 □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量

40		□ □ □ □ □ 丁 □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
----	--	---	---

41		□ □ □ □ □ 丁 □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
42		□ □ □ □ □ 丁 □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
43		□ □ □ □ □ 丁 □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
44		□ □ □ □ □ 丁 □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量

45		□ □ □ □ □ 丁 □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量量
----	--	---	--

46		□ □ □ □ □ 丁 □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
47		□ □ □ □ □ 丁 □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
48 (15)		四 十 八 丁 不明 不明	高さ 50cm 幅 28cm 厚さ 11cm 自然石 推定重量 33kg
49		□ □ □ □ □ 丁 □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量

50		□ □ □ □ 丁 □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量量
----	--	---	--

51		□ □ □ □ 丁 □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
52 (16)		五 十 二 丁 不明 不明	高さ 47cm 幅 23cm 厚さ 10cm 自然石 推定重量 23kg
53		□ □ □ □ 丁 □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
54		□ □ □ □ 丁 □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量

55		□ □ □ □ 丁 □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量量
----	--	---	--

56 (17)		五十六丁 不明 不明	高さ 44cm 幅 30cm 厚さ 10cm 自然石 推定重量 28kg
57		□ □ □ □ 丁 □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
58		□ □ □ □ 丁 □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
59 (18)		五十九丁 長二郎(✓) 同村	高さ 45cm 幅 28cm 厚さ 10cm 自然石 推定重量 27kg

60		□ □ □ □ □ □ □ 丁 □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
----	--	--	---

61		□ □ □ □ □ □ □ 丁 □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
62		□ □ □ □ □ □ □ 丁 □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
63		□ □ □ □ □ □ □ 丁 □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
64		□ □ □ □ □ □ □ 丁 □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量

65		□ □ □ □ 丁 □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量量
----	--	---	--

66		□ □ □ □ 丁 □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
67		□ □ □ □ 丁 □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
68		□ □ □ □ 丁 □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
69 (19)		六十九丁 不明 同村	高さ 41cm 幅 26cm 厚さ 7cm 自然石 推定重量 16kg

70		□ □ □ □ 丁 □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量量
----	--	---	--

71 (20)		七十一丁 同村 新太郎(✓)	高さ 46cm 幅 23cm 厚さ 8cm 自然石 推定重量 18kg
72 (21)		七十二丁 同村 新太郎(✓)	高さ 52cm 幅 23cm 厚さ 13cm 自然石 推定重量 33kg
73		□ □ □ □ 丁 □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
74		□ □ □ □ 丁 □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量

76 (22)		七 十 五 丁 傳七 同村	高さ 47cm 幅 27cm 厚さ 8cm 自然石 推定重量 22kg
------------	---	---------------------------	---

76		□ □ □ □ 丁 □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
77		□ □ □ □ 丁 □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
78		□ □ □ □ 丁 □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
79		□ □ □ □ 丁 □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量

80 (23)		八十丁 同村 九左エ門	高さ 47cm 幅 21cm 厚さ 11cm 自然石 推定重量 23kg
------------	---	----------------	--

81		□ □ □ 丁 □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
82		□ □ □ 丁 □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
83		□ □ □ 丁 □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
84 (24)		八十丁 同村 四郎兵衛	高さ 47cm 幅 25cm 厚さ 11cm 自然石 推定重量 27kg

85 (25)		八十五丁 久二郎(✓) 同村	高さ 48cm 幅 25cm 厚さ 9cm 自然石 推定重量 23kg
------------	---	----------------------	---

86 (26)		八十六丁 □七 同村	高さ 45cm 幅 25cm 厚さ 8cm 自然石 推定重量 19kg
87 (27)		八十七丁 市郎兵衛 同村中村	高さ 47cm 幅 27cm 厚さ 9cm 自然石 推定重量 24kg
88		□ □ □ 丁 □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
89		□ □ □ 丁 □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量

90		□ □ □ □ □ □ 丁 □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量量
----	--	--	--

91		□ □ □ □ □ □ 丁 □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
92		□ □ □ □ □ □ 丁 □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
93		□ □ □ □ □ □ 丁 □ □	高さ cm 幅 cm 厚さ cm 自然石 推定重量
94 (28)		九 十 四 丁 弥 五 兵 衛 同 村	高さ 43cm 幅 27cm 厚さ 9cm 自然石 推定重量 22kg

95 (29)		九 十 五 丁 不 明	高 48cm 幅 37cm 厚 11cm 自然石 推定重量量 42kg
------------	---	----------------------------	---

96 (30)		九 十 六 丁 不 明 (なし)	高さ 44cm 幅 32cm 厚さ 11cm 自然石 推定重量 33kg
------------	---	------------------------------------	--

3. 丁石探査記録の経緯

✓ 1；過去には見ていた

丁石！ 従来（過去に）は、道の所々のそこにあったとしながらも、書面記録しないままに放置して来た。その理由はなぜだったのか？

以下は、1983（昭和 58）年、前記、山形新聞報道「お行さまの道を行く」（上中下の 3 回）の記述より	以下は、2022（令和 4）年 10 月 11 日火曜日 11:56 宮林良幸さんにおけるメール授受の記録より
・・・途中「十三丁」とか、「二十六丁」とか彫られた大石が置かれてある。・・・	1998（平成）10 年 8 月 22 日（土）に登山した時の記録（メモ）が見つかり、10、16、19、22、42、78、82 を確認している。
しかし、その中で、2025(令和 7)年 6 月末現在判明したのは十三丁である。その他の 1 体は不明である。	しかし、その中で、2025(令和 7)年 6 月末現在判明したのは、16 丁と 22 丁である。その他の 5 体は不明である。
1983（昭和 58）年から 2022（令和 4）年 6 月までは 39 年も時間があつた、しかし、この間は、確認した丁石についてさえも、そこにあつたとしながらも、そのままになっていた。分かるものさえも書面化整理しないままそこで止まっていた。 なぜ、追求探査しなかったのか？ ただ、ただ、関心がなかっただけ！（でしょうか？） ところが、39 年後の令和 4 年 7 月に T-FMO 渦巻活動が引き金となって大きく展開した。	

✓ 2 ; 丁石発見イベントによる記録／次頁表

- ・大沼が本通りに初めて入った 2022(令和 4) 年 6 月 26 日 (日) ～調査最終日同年 11 月 26 日 (土) 5 か月間の丁石発見の記録は下表のとおり。
- ・なお、同年最初の発見となった「九十六丁」の前日 9 月 9 日 (金) 時点で、丁石 20 体の現 存を確認していた。
- ・神仏靈魂を植え込んだものであり、単なる石ころではないので単位を「体」とした。

発見月日	発見丁石	発見者 (敬称略)
2022(R4)年 9 月 9 日 (土) 時点確認数	20 体	―――
2022(R4)年 9 月 10 日 (日)	96 丁の 1 体	大沼香 (宮林同行)
2022(R4)年 10 月 3 日 (月)	80 丁、85 丁、87 丁の 3 体	布川浩久 (阿部剛士同行)
2022(R4)年 10 月 9 日 (日)	34 丁、94 丁の 2 体	大沼香 (単独)
2022(R4)年 10 月 13 日 (木)	72 丁の 1 体	大沼香 (宮林・市原 同行)
2022(R4)年 10 月 26 日 (水)	22 丁の 1 体	阿部剛士 (丁石探査イベント)
2022(R4)年 10 月 29 日 (土)	14 丁の 1 体	宮林良幸 (丁石探査イベント)
2022(R4)年 10 月 30 日 (日)	16 丁の 1 体	最上さん母娘(丁石探査イベント)
この間の新規発見の合計数； 10 体		
2025(令和 7)年 6 月末現在	総計 30 (20+10) 体の現存確認 (起点含めて 31 体) (30 体) / (96 体) × 100 ≒ 31.3% (判明率)	

4. 『高清水通り』丁石のみの位置と標高（目安）／次頁表

各丁石について GPS 測位を以って位置を特定し一覧化した。

位置情報の誤差や測定位置、機器やソフトの精度等の影響があり、完璧ではないことから真値と差異は生じる。

項 目 丁石地点	緯 度					経 度					標高	管理番号	
	度	分	秒			度	分	秒			(m)	全体	全数
(文政五年)起点記念碑	38	27	13	.	17	140	03	32	.	38	355	1	0
九丁	38	27	33	.	66	140	03	24	.	56	519	2	1
十三丁	38	27	43	.	74	140	03	21	.	24	591	3	2
十四丁	38	27	46	.	21	140	03	19	.	45	622	4	3
十五丁	38	27	49	.	39	140	03	18	.	9	643	5	4
十六丁	38	27	52	.	1	140	03	15	.	43	660	6	5
二十二丁	38	28	04	.	97	140	03	05	.	26	778	7	6
二十三丁	38	28	07	.	7	140	03	03	.	05	800	8	7
二十四丁	38	28	09	.	3	140	03	03	.	48	820	9	8
二十五丁	38	28	10	.	71	140	03	03	.	45	831	10	9
二十七丁	38	28	17	.	06	140	03	01	.	76	877	11	10
二十八丁	38	28	15	.	46	140	03	04	.	11	894	12	11
二十九丁	38	28	18	.	11	140	03	04	.	26	907	13	12
三十三丁	38	28	30	.	11	140	02	52	.	43	954	14	13
三十四丁	38	28	35	.	05	140	02	51	.	12	953	15	14
四十八丁	38	29	14	.	9	140	02	47	.	63	1084	16	15
五十二丁	38	29	27	.	65	140	02	48	.	45	1130	17	16
五十六丁	38	29	39	.	24	140	02	50	.	29	1158	18	17
五十九丁	38	29	48	.	25	140	02	55	.	13	1180	19	18
六十九丁	38	30	04	.	91	140	02	25	.	34	1210	20	19
七十一丁	38	30	07	.	53	140	02	20	.	68	1196	21	20
七十二丁	38	30	09	.	61	140	02	16	.	69	1203	22	21
七十五丁	38	30	19	.	06	140	02	13	.	03	1190	23	22
八十 丁	38	30	30	.	68	140	02	13	.	35	1210	24	23
八十四丁	38	30	39	.	85	140	02	10	.	66	1262	25	24
八十五丁	38	30	42	.	18	140	02	11	.	8	1271	26	25
八十六丁	38	30	45	.	42	140	02	09	.	41	1266	27	26
八十七丁	38	30	46	.	25	140	02	08	.	59	1264	28	27
九十四丁	38	31	04	.	8	140	02	20	.	71	1306	29	28
九十五丁	38	31	07	.	55	140	02	20	.	97	1293	30	29
九十六丁	38	31	10	.	85	140	02	20	.	11	1282	31	30

5. 2022(令和4)年度に3回実施した丁石探査イベントにおける一コマ

実施日 [発見丁石]	参加メンバー		発見時 丁石の状態	※1:探査イベント1日当たり1体を発見した。 ※2:未発見の理由は、200年以上の時を経て、ルートの変更や土砂に埋もれているからであろう。 ※3:最大の懸案は「二丁」(石)を発見すること。
10月26日 (水) [二十二丁] 1体				
10月29日 (土) [十四丁] 1体				
10月30日 (日) [十六丁] 1体				

6. 注目する丁石 2 体

高清水通りには九十六体の丁石が寄進奉納された中で次の特筆すべき 2 点を取り上げる。

それは、**四十八丁と五十九丁**である。

前者は全数九十六丁中の半分、中間の丁石である。

後者の併せた数は「五九」（ごく）となり、「極」すなわち「極め」の意味に繋がる。

ここで、数理・聖数に係る図(表)－**ア**のとりの前置きがある。

- ・ 5 は生数の極数、9 は成数の極数である。よって「五と九」は生数と成数の両方の極数である。
- ・ 5 は各生数に対し、公平・平等に働きかけて活躍し成数を生成する。
- ・ 5 は単なる中間の位置だけではなく、接着剤を担って次の発展的展開の引き金となっている。

(※1 体)	左手・原因	しょうすう 生数 (※3 天数・陽) 生まれたままの動かぬ数 [静的]	陽・奇	陰・偶	陽・奇	陰・偶	陽・奇	陰中交錯(陰中陽あり・陽中陰あり)
			1	2	3	4	5	
縁		(懸け橋・接着剤、平数)	5	5	5	5	5	
(※2 用)	右手・結果	せいすう 成数 (※4 地数・陰) 5を得て変化躍動する数 [動的]	6	7	8	9	10	
			陰・偶	陽・奇	陰・偶	陽・奇	陰・偶	
五行 (生成順)			水	火	木	金	土	
ア								

※1・2；体と用は本体とその作用、あるいは本質とその現象をいう。

※3・4；奇数を天数、偶数を地数と整理する考えもある。

(註) 陰と陽は、対極にあることの象徴因子を指し、優劣や軽重を表すものではない。

したがって、「**五十九(丁)**」は、**因縁果の道理で結ばれる「体と用」(例えば太陽とその光熱)の象徴であり、左右両極調和の象徴**である。なお、距離は $59 \times 109 = 6,431\text{m} \div 6\text{km}$ ほどの所にある。この 6 は陰(偶数)の極数となる、8 ではない、陰は負の範囲では絶対値の小さい方が実質は大きいことになる。5 と 9 は偶数・奇数の陰陽で見れば両方共に奇数の陽であり、よって陽が強まり、「体と用」の関係で見れば陰陽引き合って「中正」となる。いずれにしても誠に縁起の良い丁石なのである。

ちなみに、5 月 5 日は子供の日・端午の節句、9 月 9 日は重陽・菊の節句のしきたりがあった。

図－**①**は二つの丁石の存置場所である。

図－**②**は「四十八丁」であるが、風化摩滅が進み刻字が読み難くなっている。

図－**③**は道標「高清水」の傍に安置された「五十九丁」であり、朱色ペンガラが残っている。



四十八丁

九十六丁四十八丁で、「四十八」は阿弥陀如来が菩薩の時に
 請願した項目数に由来するものだろうと着目しているが、現存 30
 体の中で、「四十八丁」の刻字が一番不明瞭である。わざと（あえ
 て）そのような材質を選んだのか、浅く刻したのか、風化摩滅し
 たのか、どんな因縁果があるのだろうか。

今は本通りの名称と一致するこの地名を水が滴る「高清水」としているが、「高清水小屋」が掛けられ
 た古来の「高清水」は別記しているとおり、「九十六丁」(石)が安置されている、そこを今は「元高
 清水」と称している。ところがいつ頃からかは定かではないが、この「五十九丁」地点を高清水と称する
 ようになった。

このように変遷騒動に巻き込まれた因縁深い「五十九丁」は、2021(令和3)年6月30日(火)に布施
 範行と阿部剛士が発見したものである。



⑤



なお、意味深な「36、53、54、55」丁も記載したかったが、現存を確認出来ずにいる。

II 「姥像等石碑群」



左の石像は、従来、尤もらしく噂のあった「懸衣翁」像では無い。 2022(R4)年9月10日(土)撮影



円

塚辺栄蔵

明治十五年六月十三日

行年 六十三才

玉参悦道信士

織心妙悔信女

安政四巳年二月二日

同 里代

行年 三六才

頭部に墓石を象徴する
円弧が刻されている

高さ 約 52cm
幅 約 38cm
奥行 約 15cm

石の材質？

①【背面】



仙台亘理郡荒濱

施主

明治十六年建立

渡辺慶三郎

推定重量 約 89kg

台座高さ 約 16cm

.....

安政四年 = 1857 年
明治十五年 = 1882 年
明治十六年 = 1883 年

①【左右側面】

刻字なし

刻字なし



南無三十三観世音菩薩供養

寂阿道休信士

仙台邑名取長町
峯岸銀兵衛

高さ 約 63cm
幅 約 24cm
奥行 約 21cm

②【右側面】



明治二年
九月廿七日

石の材質？

推定重量 約 5kg

台座高さ 約 11cm

.....

明治二年＝1869 年
明治十五年＝1882 年

②【左側面】



明治十五年
午六月建立

本道寺先達
阿部秀学

.....

背面に刻字なし

図(表)－6

③【正面】



円

弘照院天庵浄圓大姉

明治十五年旧六月十八日

宮城縣亘理郡荒濱
施主 渋谷源吉

備考

頭部に墓石を象徴する
円弧が刻されている

③【右側面】



明治十六年末旧七月建立

山先導
佐藤養清

高さ 約 62cm

幅 約 25cm

奥行 約 22cm

自然石

推定重量 約 02kg

台座高さ 約 14cm

.....

③【左側面】



名取郡土崎道

渡辺吉兵エ娘

□□女

明治十五年＝1882 年

明治十六年＝1883 年

.....

背面に刻字なし

図(表)－7 ④【正面】	④【背面・側面】	備 考
	四方面に刻字なし (像容からして 仏教色の濃い姥様)	高さ 約 40cm 幅 約 45cm 奥行 約 29cm 自然石 推定重量 104kg 台座高さ 13cm 建立年等不明 (刻字なし)
図(表)－8 ⑤【正面】	⑤【正面】	備 考
	正面・側面に刻字なし 「けん え おう懸衣翁」では無く、神道色の 濃い神像	高さ 約 45cm 幅 約 27cm 奥行 約 14cm 自然石 推定重量 約 34kg 台座高さ 約 22cm
⑤【背面】	⑤【背面】	備 考
	奉納 祖母神 湯殿山 本道寺 梅(以下欠損) 米沢城下 大福(以下欠損) きょうほう享保六辛丑天六月初八日	享保六年=1721 年 両側面に刻字なし この石像は、従来、 もっともらしく噂の あった「懸衣翁」では 無い。

本道通り上において、このような姥像・石碑等が固まっている（集合している）のは、ここ1個所のみであるが、靈魂・靈氣漂う不思議な雰囲気のある所である。刻字銘文の読み解きから背景等を探って見たいと思う、一つの観方ということになる。なお、簡単に整理しておくことがある、墓石は、物理的には死亡者の骨を納めた所の印、精神的には先祖霊供養の印である。いずれにしても**家族（親族）単位の**供養碑とも言える、対して、一般的な供養塔・供養碑は五輪塔や宝篋印塔などのように遺骨埋蔵の有無に限らず一般の人の供養対象とするものである。

①墓石について

塚辺栄蔵さんと理代さんは夫婦関係だったのだろうか。その友人なのか親族なのか、いや、「同 理代」となっており、夫婦であろう。仙台亘理郡の渡辺さんが施主となった、男は明治15（1882）年、女は安政4（1857）年が命日、その暦年差は25年である。男の死去翌年かつ建立年の明治16（1883）年は、女の死去後26年、すなわち、女の27回忌法要の節目である。理代さん連れ（配偶者）の栄蔵（俗名）さんと合わせて、逆に、栄蔵（俗名）さんに理代さんを合わせて供養するためにわざわざここに建立したということではないでないのか。ここを選定した理由は当然、2人とも月山・湯殿山参りに当たり、本道寺村宿坊からの接待ならびに高清水通りを歩かせて貰ったことに対する感謝・強い思い入れの表明であろうか。一方、年齢差は男63歳、女36歳、その差は27歳である、たまたま、暦年差とほぼ一致したということ。なお、「塚辺」と見たが、塚は劣化して読み難いが、あるいは「渡辺」なのかもしれない。すると、遺族の施主は息子かもしれない。おそらく、分骨しここに遺骨の一部を埋葬した可能性大である。

②供養碑について

戒名に「寂阿」と刻しているが、「寂」は「じゃく」または「せき」ともいうが、悟りを開いた境地をいう、「阿」は阿弥陀仏を信仰する人々対し、略称として、阿弥や阿という法号を使うそうですから、熱心な時宗——鎌倉時代に開祖を一遍上人とする浄土宗の一派の衆徒ではなかったかという見方がある。霞場（旦那場）の代表的存在であった方であろうか、戒名を寂阿道休信士とした俗名銀兵衛さんが明治二年に死去したから13回忌法要の節目に供養慰霊のために、先達であった本道寺村の阿部秀学さん（先達）が恩返しの意から偲んで施主となって建立したものではないだろうか。また、確証はないが、取子の関係があったのではないかという話もある。

碑文に「三十三観世音菩薩」と刻字していることに重要な意味がある。

阿弥陀如来は、仏教最高位の如来として何かにつけ信仰され、自身を中尊とし、その左脇侍に観世音菩薩を、右脇侍に勢至菩薩を従えて三尊形式を構成している、このことから頷ける。

③墓石について

正面の戒名弘照院は仙台名取郡の渡辺吉兵エの娘であろう。施主の渋谷源吉さんは本道寺側から見た霞場（旦那場）亘理郡界隈の取り纏め役だったのか。本道寺村山先導の佐藤養清さんが導師役となって建立したということだろうか。おそらく、分骨しここに遺骨の一部を埋葬した可能性大である。

①と③の墓石に共通的なこと

✓ 1；頭部に彫刻された円弧の意味を整理しておく。最初、梵字が風化したのかと思ったが、そうで

もないことが分かった。グーグル AI Gemini によれば次のとおり。

- ・太陽または月を表す 太陽や月は生命の源であり、死後の永遠の命を象徴する。
- ・輪廻を表す 円は輪廻の象徴である。死後、生まれ変わりの輪から解放されるという信仰を表している。
- ・永遠を表す 円は永遠の象徴である。死後も魂が永遠に存在するという信仰を表している。
- ・神を表す 円は神の象徴である場合もある。神の完全性、無限性、永遠性を象徴する。

具体的な例としては、キリスト教の墓石では、円が神の創造物である太陽や月を表していることが多くある。仏教の墓石では、円が輪廻の象徴であることが多い。また、無宗教の墓石でも、円が永遠や生命の源を表すために使用されることがある。

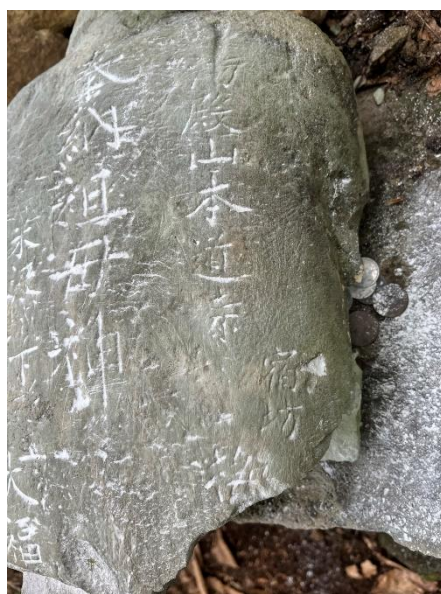
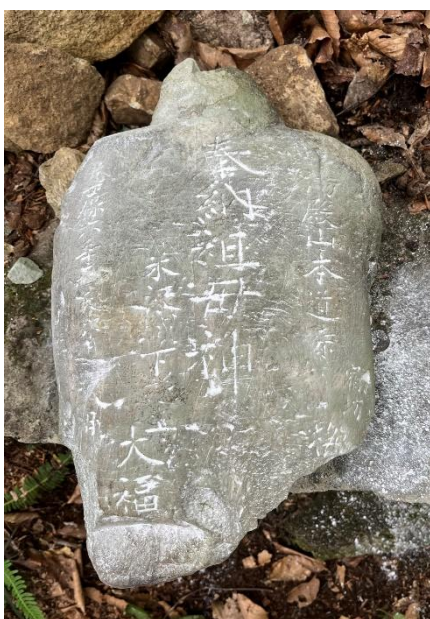
✓ 2 ; また、①③石造物 2 基共に特定の故人の戒名を刻し、その形態からして、社会通念上の墓石である。

④「うば」について

ややこしい説が沢山あるようだが、この現地に即して簡単に扱う。「姥」は「^{だつ え ば}奪衣婆」と「^{う ば ・ め の と}乳 母」の分けがある。前者^{さんずのかわ}奪衣婆は^{そう ず か}三途川（葬頭河）で亡者の衣服を剥ぎ取る老婆の鬼の意であるが、後者は実母に代わって乳児に授乳し養育する女性の意を持つ。このものは優しい像容からして後者を形象したもの「^{う ば ・ め の と}乳 母 = 姥（像）」だと考えている。

⑤『祖母神』について

この石像については、2022(R4)年 9 月 14 日（水）の午前、大沼が背面調査で初めて刻字を確認して解読し、初めて公にしたものである。これについては何回か背面確認を行っていたが、苔がびっしり覆っており、一見何もないだろうと先入観で突っ込みを怠っていた。しかし、この日は直感が働き、苔を落とした処、何と刻字がはっきりと表れたのである。

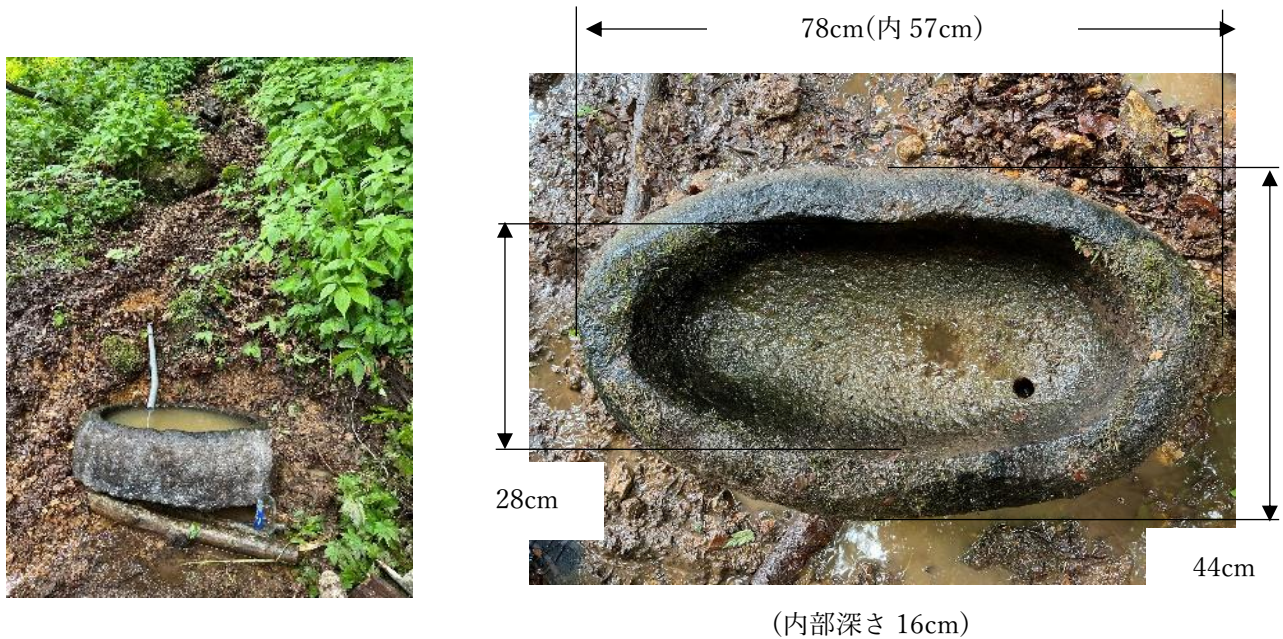


普通に称する「うば（姥・奪衣婆）」は仏教色の表れだろうが、これは神道色の濃い神像である。

「祖母神」は前記後者の意を持った「うばがみ」(乳^{うば・めのと}母)であり、慈愛を施す母(母性)への崇敬と感謝を込めて神格化した石像をここに奉納したということであろう。施主(寄進者)となっただろう米沢城下の大福□は、米沢周辺で大福寺なら飯豊町にあるようだが、そこなのだろうか。また、本道寺集落に実在した「梅□□」の役割は、建立者ということだろうか。右下『梅』の下は欠損しているが、本道寺集落に実在した僧坊「梅本坊」であろうと推測する。梅本坊の役割は、霞場でお世話になった大福□に対しての導師的な存在ではなかっただろうか。

左下日付『八日』の上は損傷しているようにも見えるが、一字分が空いている。八日は湯殿山の縁日なので、『初』ではないかという見方もある。

III 水受け「石船」^{いしぶね}



図－1

全体状況は図－1のとおり。当初の設置状態は、刻字面が山側で水が常時当たっていることから、特に上の横1行の文字が他と比べ摩滅が進行している。一部に朱色ベンガラが残っている。

刻字の解読結果は図(表)－2のとおりである。

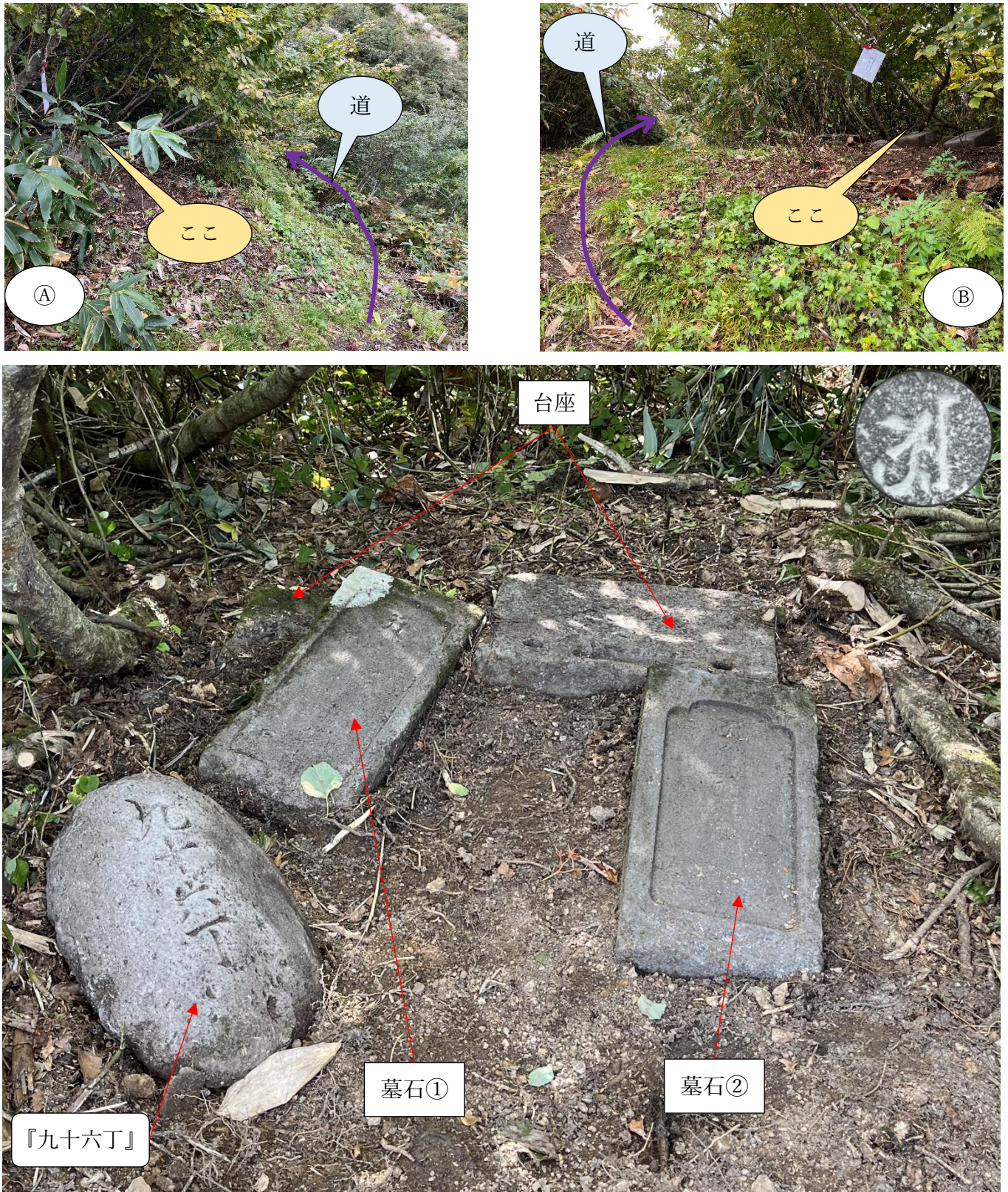
年代はもとより、寄進者（施主）が山形市八日町の人であると判明したことはまことに喜ばしいことである。

設置（寄進）年は、正徳六年は西暦1716年であるから、姥像等石碑群にある享保六年（1721年）の「祖母神」よりも5年も古いものであることが分った、本通り沿い設置の石碑・石塔・丁石において一番古いものとなる。

⑫	⑪	⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
(上の横1行が磨滅)											
	双	住	形	施	五	丙	正	菩	縁	眷	為
敬	羽	人	八 日	主	月	申	徳	提	無	属	六
白	氏		町	山	日	年	六	也	縁	有	親
右のとおり謹んで申し上げます。 (謹んで寄進奉納致します。) (※) 六親は、父、母、兄、弟、妻、子。または、父、子、兄弟、夫、妻など親族の全てを指す。 施主(寄進者)は山形八日町の住人「双羽」(ふたば?)という者です。 設置(寄進)年の正徳六年は、丙申(ひのえさる)年、西暦1716年の旧暦五月です。 全ての親族縁者(※)、ならびに縁の有る無しに係らず故人みんなの霊魂が「悟り」を得られ成仏出来ますように冥福を祈るものです。 為六親眷属 有縁無縁 菩提也 正徳六丙申年五月日 施主山形八日町 住人 双羽氏 敬白											
図(表)－2											

IV 古来の『高清水』（現元高清水）墓石2基

図④は高清水通りにおいて本道寺から月山向け、⑤は反対に本道寺向けを見た状況である。下図は「ここ」の場所の状態。『九十六丁』の石と二つの墓石と二つの台座がある。①と②の刻字はかなり劣化・摩滅しているが、判読出来た範囲では次頁のとおりである。



図－ 9

①左側面	①正面	①右側面	
			墓石本体)
			高さ 55cm 幅 25cm 奥行 16cm
			推定重量 66kg
			(台座) 高さ 25cm 幅 37cm 奥行 9cm
□□□□清・施主	文政三庚辰歳九月 竟道栄、究信士 (朱ベンガラ残存無し)	(朱ベンガラ残存有り) 蓮屋妙光信女 還意浄光信士	 文政三年 = 1820 年

図(表) - 10

②左側面	②正面	②右側面	
			(墓石本体)
			高さ 57cm 幅 26cm 奥行 15cm
			推定重量 67kg
			(台座) 高さ 38cm 幅 50cm 奥行 13cm
右側に何か刻しているようだが、劣化・摩滅で判読不可 施主名か？ (朱ベンガラ残存有り)	自興院禅岳栄・滲居士 錦□□□清成事 (朱ベンガラ残存無し)	(朱ベンガラ残存有り) 天保二辛卯天 四月初四日	 天保二年 = 1831 年

図(表) - 11

2 基共に特定の故人の戒名を刻し、かつ、第三者が絡んでいないことから、墓碑・供養碑の意も含めつつも、地中から石造物が出たということに着目し、ここでは総称的に墓石と称します。

1) 二つの墓石共に背面には何も刻されていない。

①について、墓碑の読み方について、2022(R4)年 11 月 25 日、山形市内石材名工の一人とされる、「石沢石工（中桜田）当主」、2024(R6)年 1 月 5 日（金）山形市岩波石行寺佐藤住職からの意見を参考にすると次の 3 点の可能性がある。

- ✓ 1；遺族は、父「竟道栄究信士」の死去を機会に、施主は過去にここで亡くなっていた夫婦であろう「蓮屋妙光信女・還意浄光信士」を思い出して、一緒に鎮魂・慰霊のために側面に刻したのだろうか。残存の赤色ベンガラは、ここに墓石を置くようにと生前の意思を表したものではないか。
- ✓ 2；生存し、ここに奉仕している息子夫婦（施主は息子）は、同じくここに奉仕して来た父「竟道栄究信士」の死去を機会に、息子夫婦は旧本道寺住職から生前戒名（文字に朱色ベンガラ残存）を付けて貰い、当地に墓石を安置したのではないか。一般的には、生前戒名は亡くなったら遺族は消すが、消し忘れか、放置したのか。
- ✓ 3；ここに奉仕して来た父「竟道栄究信士」の死去を機会に、施主はここに墓石を安置した。側面刻字を墓誌と見なせば、その後の代において、ここに奉仕し亡くなった夫婦のその時の生前戒名を側面に刻したこともあり得る。すると、これには親子三代が登場した。

②についても右側面の年号に朱紅殻ベンガラが一部に残っている。

①・②に共通的なこととして、正面戒名はとても丁寧な額彫りの中に刻しており、費用も掛かっていることからみると格式・身分の高い人であったろうと想像する。また、「清」の文字や栄の文字が共通している。

2) 朱紅殻ベンガラの意味合いについて簡単にメモする。

生前にお墓を建てた	}	生前に戒名・法名を決めておいた
		金箔等を貼るための素地作り
		など。

さて、第 2 章に記述した古文書によれば、この清水小屋には専属の別当源養坊が当たり、家来を 2 名常駐せたとあります。みんなこの別当に繋がる親戚一族だったのだろうか。

3) 遺族の心には日頃からお参り出来るように麓の墓地に埋葬し墓石を安置したいとする率直な気持ちがあったと想像する。しかし、そこを遮さえぎってなぜこんな山奥に安置・建立したのだろうか。それは、このような山奥で道者接待に奉仕して来たひた向きの心意気に賛美と顕彰の心を表したく、供養・慰霊のためにここに埋設したものだと思われている。あるいは、戒名の処に朱紅殻ベンガラが残存しており、本人達がここへの建立（埋設）を生前に希望していたのであろうとも思う。それにしても、従事した小屋掛け期間はたった 2 か月（新暦の 7 月下旬～9 月中旬）であったが、ここに埋設したのは、生前の本人達に特別の思い入れがあつた、遺族に伝わっていたからであろう。

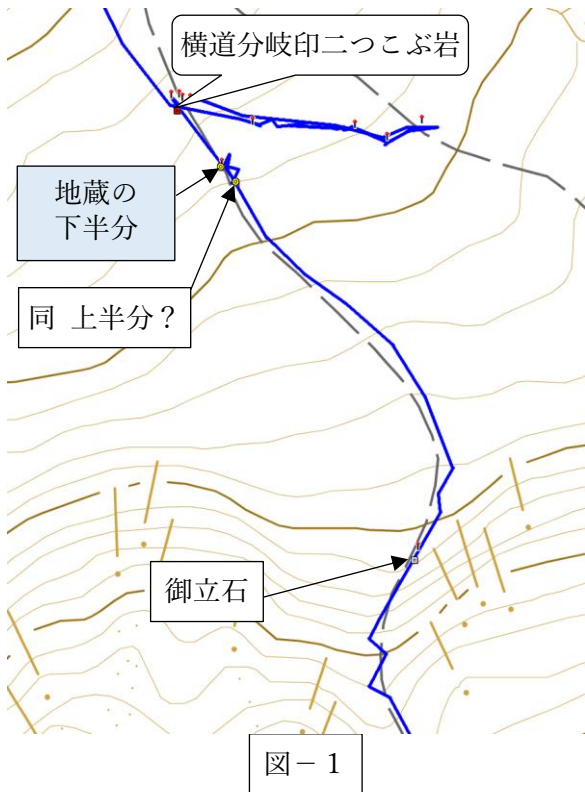
4) 墓石 2 体の頭部には、大日如来[胎藏界]の種子(梵字ア )が刻されている、まさしく、湯殿山信仰（真言宗皈依）の証である。

5) 台座にはローソク立て穴と、線香を横置きで焚く溝が彫られている。

6) もう一つ、重要なポイントがあり、女性の戒名が告示された墓石があることである。ここまで女性の立ち入りを認めていたことになる。何かの本に南側の姥像等石碑群の所が女人禁制の境界であったとする説が書かれていたが、そこではなかったのではないかな。

V (半体) 地蔵菩薩像

この上半分が欠損した石像は 2022(R4)年に初めて気付いたものの、特に注視して来なかった。しかし、時が経つにつれて関心が湧き、2024(R6)年 10 月 17 日 (木)、同年 10 月 25 日 (金) の細部調査を踏まえた記録である。図-1 の場所において「地蔵の下半分」と記述した周辺状況は図-2 a のとおりで、拡大すると同図 2 b のとおりである。まずは、同図 b において**㊤**に注目する。



Q 1 ; 図-2 b 中の**㊤**は何の像なのか？

A 1 ; 襷(ひだ)の線刻からは地蔵菩薩像であろうと推察している、よって、これを上半身が欠損していることから「(半体) 地蔵菩薩像」と称することとする。

Q 2 ; **㊤**半体地蔵の右側に刻字を視認出来るが、何なのか？

A 2 ; 白墨を塗布して確認した結果は図-3 のと

おりで、「**岩根澤 本道寺**」と刻されていることを**突き止めた**。いわば、**道標(道しるべ)**も兼ねていたということであろう。年号などの他の刻みはないように見えた。まずは、これを判明せしめただけでも大変良かった。高清水通りのあのような高地に、諸々の篤い信仰心を集めた地蔵菩薩に道しるべ(道分け)を託して祀ったということだろうか。





岩
根
澤
本
道
寺

図－ 3 a



岩
根
澤

図－ 3 b

Q 3；この半体地蔵の上半分はどこに行っただのか？

A 3；付近を捜した処、この地より約

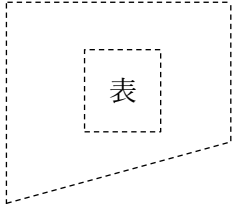
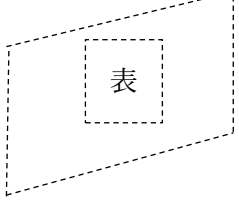
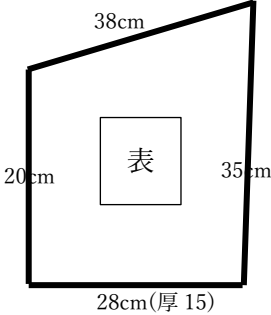
10 数下流側に図－ 4 c のとおりの欠損石が草わらに転がっていた。一瞬、これではないかと直感したが、重くて移動出来ずに切断（破断）部分の整合（接合）を確認出来なかった。中央部は少し削ったようにも見えた。もしも、全体の一部だとしたら、中間（図－ 4 b 相当）に欠損部があるのかもしれない。

ただし、材質が違ふような気もするが、図－ 4 c のこの上面は実際は地面に接したことから風化し少し変色したとも見られた。

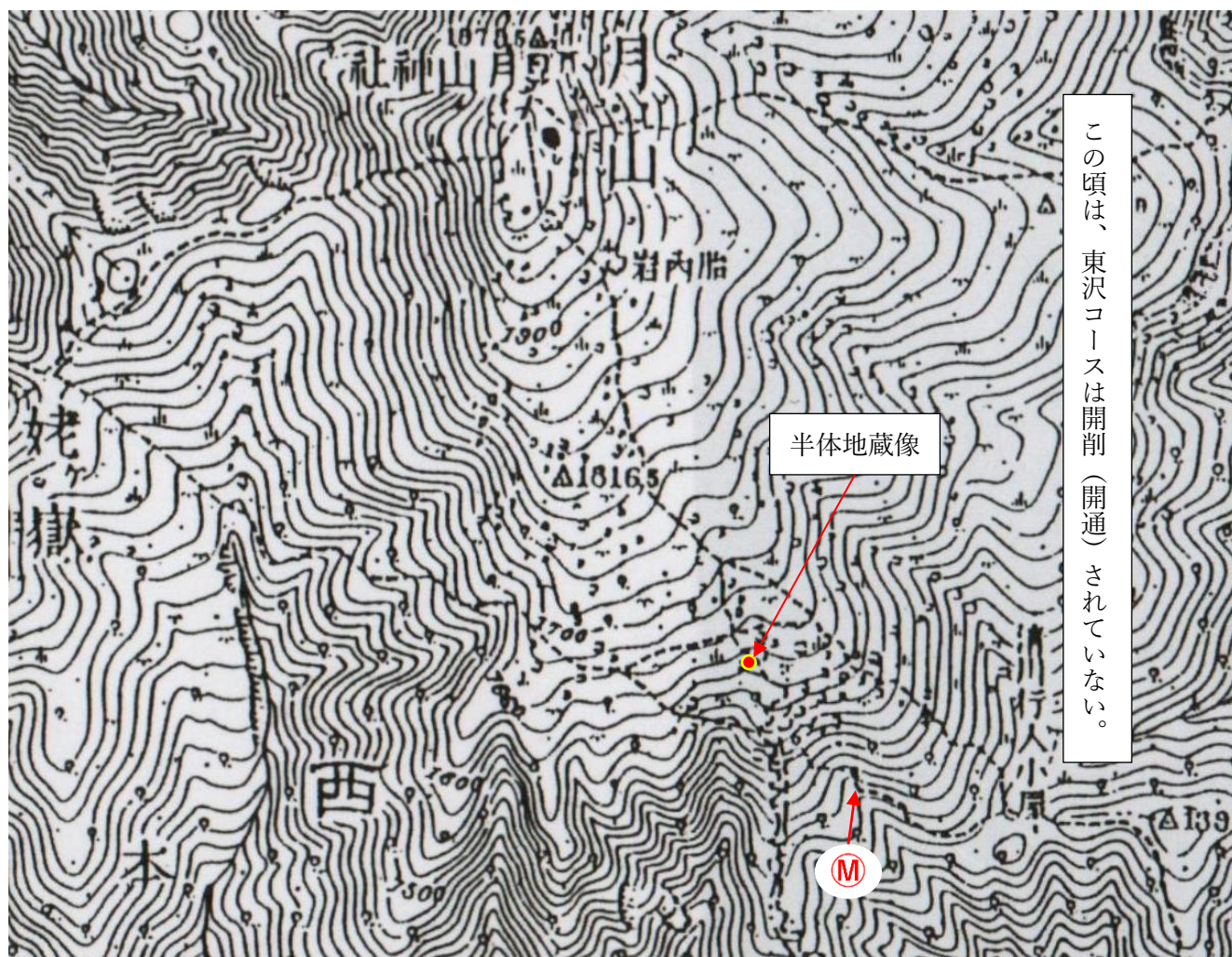
部位対応のイメージ図は図－ 5 のとおりである。

結論は㊤の欠損上部はどこにいった（ある）のかは不明である。

Q 4；道しるべとしての「岩根澤 本道寺」というが、その集落に行くための具体的なコースはどこだったのか？

 図－ 4 c	 図－ 5 c
なし 図－ 4 b	 図－ 5 b
 下部のみ現存 図－ 4 a	 下部のみ現存 図－ 5 a

A 4；図－6 は大正二（1913）年一月二十五日印刷 国土地理院地形図である。同図上の道（点線）を今の同地形図に重ねて、一部推定を含めてプロットすると図－7のとおりとなる。



図－6

さて、道しるべ兼（半体）地藏菩薩像に刻字の「本道寺」は高清水通りの先——ここより南側・下流側にあることから素直に理解出来る。しかし、問題は「岩根沢」に行くにはどの道を通れたのか？ である。図－6 作成時は高清水通りと清川行人小屋を直結する今でいう㊦コース「清川よこみち」は完成していなかったことを踏まえた上で、㊤コースか、㊦コース（今の清川よこみちの一部）のいずれかを指すのであろうと考える。図－6 ㊤点は余りにも急峻で崩れやすく、おそらく昭和に入ってから、水平移動で高清水通りに結ぶやり方で開削した——㊦コースを完成させたのではないか。

すると、今の処、建立（安置）年は不明なので何とも言えないが、㊤コースから清川行人小屋に至り、清川道南下で「岩根沢」に行くということを指していたのだろうと推測している。



Q 5 ; 戻って、図-2b における㊸は何か？

A 5 ; ㊸は 2023(R5)年 9 月 14 日(木)、山形市内の堀米晴夫さんが気付いて引上げてくれたものだが、㊸とセットなのかと一瞬思ったが、現場で良く見ると石の彫り方、および材質が明瞭に異なると思われたことから、まったく別物だろうか。何か像が彫られていたのか、墓石だったのか、すると今度は、下半分はどこかに転がっているのだろうか？

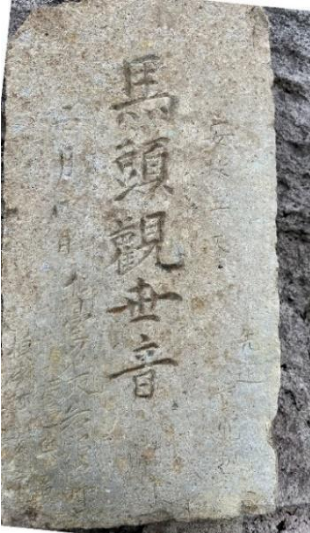
これを解くヒントがある。図-8——大江町沢口(中沢口地藏堂境内)にある「石祠(葉山大権現)」で、お札を受入れる石祠——は天童市の矢野光夫さんから入手したものであり、これの上部に類似しているように見えるが、果たして何の目的だったのだろうか。



図-8

VI 「胎内岩」の供養碑と墓石 (一部)

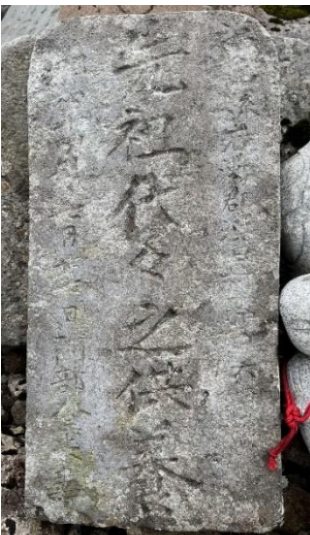
高清水通り沿いにあることから取り上げる。墓石碑類は多数あるが、その中の一部について参考的に6基の活字化を図った、右列に女性戒名が刻された墓石3基を記載する、頭部に墓石を象徴する円弧が刻されている。一般的な供養碑と墓石は明らかに異なる。



先達
安政五天 重寛坊
馬頭観世音
二月四日 仙台名取岩沼中村
渡邊兵吉
榎原村 藤五郎



天保□



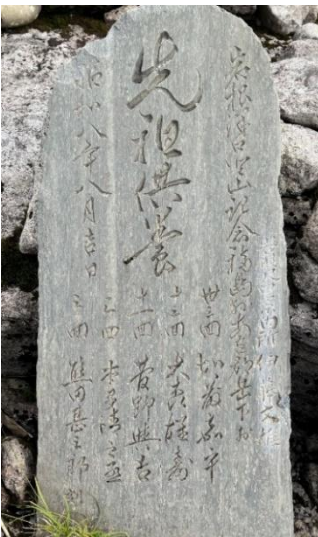
福島縣岩瀬郡浜田村前田川六□
先祖代々之供養
昭和十四年六月廿七日 阿部登米 壽



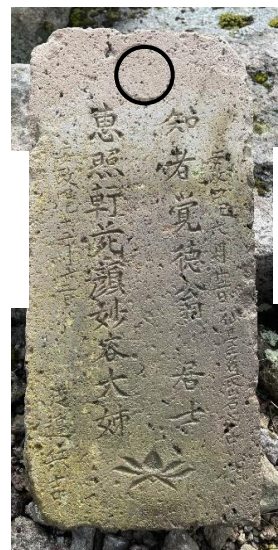
嘉永三

嘉永□

女性戒名の墓石



岩根沢口案内所 伊藤文雄
岩根澤口登山記念福島縣安達郡岳下村
先祖供養
昭和八年八月吉日
廿三回 加藤嘉平
十三回 大森雄壽
十一回 菅野與吉
七回 本多清之丞
三回 熊田甚三郎 刻



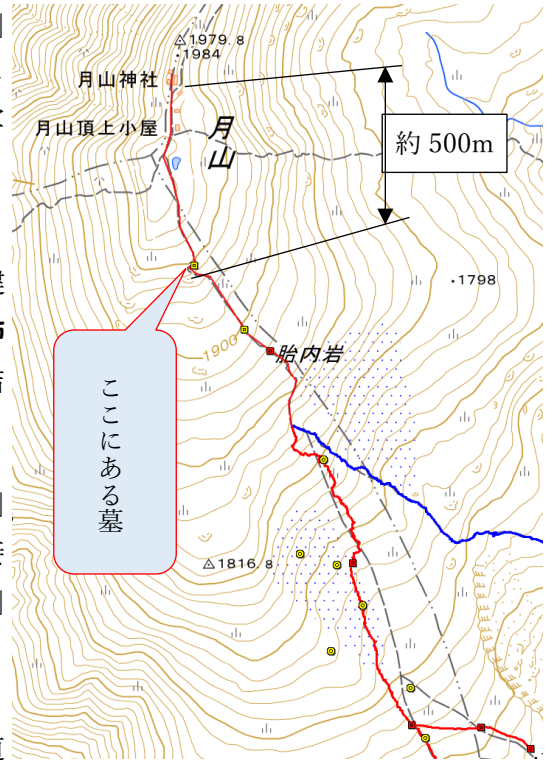
安政四

安政四

Ⅶ 修行僧「禅定尼」の墓石

月山ユートピア・ランドにおいて、以前より「ここにある墓」が気になっていたものの余り強く着目して来なかった。しかし本年、2024(R6)年9月4日(水)、月山に行った際に撮影した写真に注目して見た。

左側のものの刻字は風化摩滅著しく解読に至っていない。
右のものは、寛延^{かんえん}4 未^{ひつじ}年(西暦 1751 年)、江戸時代中期に建立(奉納安置)したものである。中央部の刻字は当初「風月姉清禅定」と読んでいたが、市村幸夫さんの協力を賜り解読の結果、「風月妙清禅定尼」(女)と言われたことから凝視するとそのとおりの刻字であることが分かった。なお、男だと「禅定門」になるという。その意味合いについて、ネットで調べたが直接的な回答は見当たらず、A I を参考にすると、「風月妙清禅定尼」は禅宗(曹洞宗)修行者の戒名であるという。よって、禅の、それも女性修行者の墓石、いわば仏門に入った女性の墓であることが分かった。ここ月山の風光明媚、自然至高美の域で禅道を以って修行し、ついに悟りの境地に至った理想的な女性像を表現したのではないのか。曹洞宗信者の女性が、天台宗領域のここらまで来て、修行した証拠の一つであると素直に読める。すると、左のものも墓石のように見えるが、右のものの事情・由緒・趣意を刻したものだろうか。これも、当該域においてはとても希少価値の高い重要な史蹟ではなかろうか。



VIII 本通り沿いにあるその他石碑



大正十二年四月十七日
虚空蔵山
洪谷昇太建立

高さ 約 70cm
幅 約 53cm
奥行 約 24cm

推定重量 約 189kg
自然石
西暦 1923 年



昭和七年十月十二日
山神
阿部竹蔵

高さ 約 42cm
幅 約 38cm
奥行 約 16cm

推定重量 約 54kg
自然石
西暦 1932 年

二つの場所は図のとおりで、林道歩きで 200m 弱の間隔である。山神碑は旧砂子関村・風明山方向を向いている。虚空蔵山碑は白鷹山山頂に祀っている虚空蔵菩薩と向かい合うように安置している。養蚕の神、海運の神で、白鷹では旧暦 5 月 13 日の縁日には今でも多くの参拝者で賑わっている。なお、山名は、上杉鷹山公の篤い信仰にちなむとの伝承もある。

したがって、過去には本道寺地区においても養蚕が盛んであったということからして、地元の人が供養のために建立したものであろうか。



IX 本通りの道標

1. 道標

図のとおり、全7基を「令和2年秋」付けて建立開始、令和3年に全て設置完了した。



1

口之宮湯殿山神社境内



2

「夫婦清水」手前
林道との分岐



3

水場



4

姥像等石碑群



5

水場



6

水場



7

さいとば
柴明場

2. 作業風景

本道標設置は「大黒森プロジェクト」が実施したものである、背負う訳にもいかず、キャタピラ付台車や2輪バイクも利用しつつ、道を切りながらの難行であった。



X 〔 石碑・石塔の大きさと重量の一覧 〕																					
各 丁 石																					
連 番		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16				
「丁」		9	13	14	15	16	22	23	24	25	27	28	29	33	34	48	52				
大きさ (cm) [最大値]	高さ	42	47	45	47	53	53	50	56	56	52	53	49	53	46	50	47				
	幅	38	27	26	30	31	36	30	26	30	32	24	31	34	31	28	23				
	厚さ	10	15	8	10	10	10	12	10	10	11	11	14	11	10	11	10				
ポリウム	体積(cm3)	15,960	19,035	9,360	14,100	16,430	19,080	18,000	14,560	16,800	18,304	13,992	21,266	19,822	14,260	15,400	10,810				
	85%に圧縮	33,915	40,449	19,890	29,963	34,914	40,545	38,250	30,940	35,700	38,896	29,733	45,190	42,122	30,303	32,725	22,971				
	重量(kg)	34	40	20	30	35	41	38	31	36	39	30	45	42	30	33	23				
					17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	加重平均	最大値	最小値
					56	59	69	71	72	75	80	84	85	86	87	94	95	96	0	0	0
			高さ		44	45	41	46	52	47	47	47	48	45	47	43	48	44	48	56	41
			幅		30	28	26	23	23	27	21	25	25	25	27	27	37	32	28	38	21
			厚さ		10	10	7	8	13	8	11	11	9	8	9	9	11	11	10	15	7
					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			体積(cm3)		13,200	12,600	7,462	8,464	15,548	10,152	10,857	12,925	10,800	9,000	11,421	10,449	19,536	15,488	14,041	31,920	6,027
			85%に圧縮		28,050	26,775	15,857	17,986	33,040	21,573	23,071	27,466	22,950	19,125	24,270	22,204	41,514	32,912	29,837	67,830	12,807
			重量(kg)		28	27	16	18	33	22	23	27	23	19	24	22	42	33	30	68	13
										52(T-FMO)											

文政五年の九十六丁起点記念碑			姥像等石碑群												
連 番			連 番		①	②	③	④	⑤	加重平均					
項 目			項 目		墓石	供養碑	墓石	姥	祖母神						
大きさ (cm) [最大値]	高さ	66	大きさ (cm) [最大値]	高さ	52	63	62	40	45	52					
	幅	30		幅	38	24	25	45	27	32					
	厚さ	20		厚さ	15	21	22	29	14	20					
ポリ ユ ー ム	体積(cm3)	39,600	ポリ ユ ー ム	体積(cm3)	29,640	31,752	34,100	52,200	17,010	33,660					
	圧縮率	0.85		圧縮率	1.0	1.0	1.0	0.8	0.8						
		84,150			88,920	95,256	102,300	104,400	34,020	67,319					
	重量(kg)	84		重量(kg)	89	95	102	104	34	67					
元高清水の墓石											その他石碑				
連 番			①		②		加重平均				項目			山神碑	虚空蔵 山碑
項 目			左側墓石		右側墓石										
大きさ (cm) [最大値]	高さ	55	57	56				大きさ (cm) [最大値]	高さ	42	70				
	幅	25	26	26					幅	38	53				
	厚さ	16	15	16					厚さ	16	24				
ポリ ユ ー ム	体積(cm3)	22,000	22,230	22,134				ポリ ユ ー ム	体積(cm3)	25,536	89,040				
	圧縮率	1.0	1.0	1.0					圧縮率	0.85	0.85				
		66,000	66,690	66,402						54,264	189,210				
	重量(kg)	66	67	66					重量(kg)	54	189				
							53(T-FMO)								

(end)